

平賀 暁

マーシュブローカージャパン株式会社
代表取締役会長

「グローバルリスク報告書

二〇二三年版」に見る

世界経済を震撼させる リスクの潮流

二〇二三年一月三日から二七日の五日間に亘り、スイスの保養地ダボスにおいて、世界経済フォーラムの年次総会が開催された（通称ダボス会議）。例年、各国の政界・学界・産業界から有識者が集い、世界経済の発展に向けた前向きな議論が繰り広げられる。その期間中に披露されるのが表題のグローバルリスク報告書であり、今年が八版目に当たる。世界経済を活性化するため議論の場であると同時に、それらを阻害するリスク論議も活発に交わされる。今年の報告書は、長引く金融危機のために、異常気象が加速している現状にも関わらず、気候変動への危機意識が欠如していることから、世界がより危険な状況にあることの冒頭から始まる。

グローバルリスクは、一カ国や地域に限らず二大陸以上に影響を及ぼす、正に世界経済を震撼させるリスクがその定義である。昨年同様、リスクを次の五つに分類している。理解を深めていただくために、各カテゴリの特筆すべきリスクを例示しているが、詳細は別表の「二〇二三年グローバルリスクの展望」をご参照いただきたい。

- ① 経済リスク（極端な所得格差や長期間にわたる財政不均衡）
- ② 環境リスク（温室効果ガス排出量の増大）
- ③ 地政学リスク（グローバル・ガバナンスの破綻や外交交渉の失敗）
- ④ 社会リスク（水供給危機や高齢化への対応失敗）
- ⑤ テクノロジーリスク（サイバー攻撃やデータの不正利用・盗用）

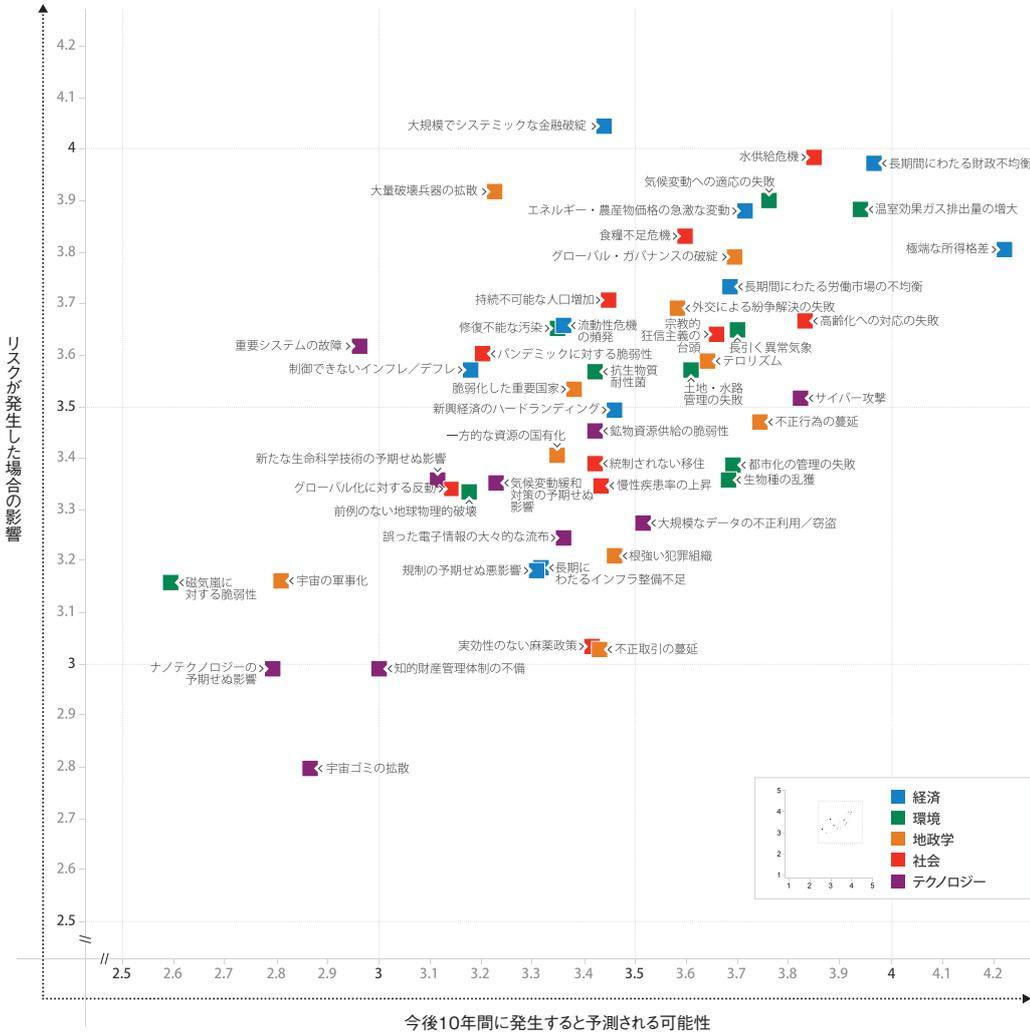
各業界から千人以上ものリスク・レスポンス・ネットワークと呼ばれる世界の有識者からのヒアリングや意識調査を経て、各カテゴリの上位一〇個ずつのリスクを今後一〇年間に発生すると予測される可能性（頻度）と、発生した場合の影響（深刻度や被害程度）を配置したものが別表である。実は、今年のリスクマップの各カテゴリ一〇個ずつ合計五〇個のリスクは、昨年二〇二二年版と全く同じ内容である。しかし、五〇のリスクのほとんどが、それぞれの頻度・影響度のいずれかあるいはいずれ共に二〇二二年版よりも高くなっている。例えば「新興経済のハードランディング」や「高齢化への対応の失敗」などは、頻度・影響度が共に高くなって

いることから、これらが世界経済の成長を妨げる主因子になり得ることを、多くの人が憂慮していることが読み取れる。

報告書では、先進諸国を含めて世界的に長期に亘る経済・金融の停滞と異常気象の多発による、より複雑なリスク構成を指摘している。また、それらの蔓延するリスクが次第に膨張してきており、もはや待たなしたに世界的脅威に対する国家の弾力性（レジリエンス）に、世界各国が共通課題として一丸となって取り組まなければならないと警鐘を鳴らしている。国家はグローバルリスクに対する弾力性を優先し、大規模な動揺があっても国家の重要システムの機能続行を確保する必要がある。と同フォーラムのマネージング・ディレクターのリー・ハウエル氏が述べている。報告書は、単に五〇のリスクを羅列しているばかりでなく、リスクの連関性についても同時に言及している。各リスクは単独で発生して終結するのではなく、時間が経つに連れて他のリスクを呼び起こし、リスクを増幅して複合的リスクとなり、やがては負の連鎖となり進化していく。リスクの根源をしっかりと把握して摘み取っておくことは国家であっても企業・団体であっても対応の仕方は同じである。リスク管理によって売上や利益は創出できないが、それらを阻害するリスクに対して、軽減・転嫁・回避・保有するなどの方策を構築することが企業が成長を継続させる源となる。

今年の報告書では、最重要のリスクケースを三つ

●2013年グローバルリスクの展望



出典:世界経済フォーラム

紹介している。「健康問題への根拠なき過信」「経済と環境の弾力性」「デジタル・ワイルドファイヤー」である。これらは企業それぞれにも通用する。

健康問題への根拠なき過信

医学・医薬の進歩により人間の寿命は延び、健

康状態は大きく向上したが、細菌の変異によって予測のつかない大流行病を引き起こさないとも限らない。人間の存続をも脅かしかねない事態に一步步近づいていることに、大きな危機意識を持たなければならない。

経済と環境の弾力性

社会経済システムの混乱が続いているため、世界の指導者の関心事は経済問題に集中しており、気候変動の課題はなおざりにされている。自然災害だからという認識バイアスがかりすぎており、問題解決の重要度が経済リスクに比べて軽視されがちである。これらの二つのリスクに対する弾力性を差異なく取り組まねばならないことを重要視している。

デジタル・ワイルドファイヤー

訳すと「ネット上の山火事のような事態」となる。現代では膨大な情報量が一瞬のうちに交換・共有されるが、それらを規制するような枠組みや規範はまだ整備されていない。利便性や即効性を重視するあまり、もはや情報管理ができない状態にまで近づいているのではないかと言われている。情報の民主化が予測不可能な事態を発生させることを示唆している。

前述の通り、報告書で取り上げるリスクは、世界経済を震撼させるリスクである。ただし、企業にとってこれら五〇のリスクは、対岸の火事ではなく直接・間接的に影響を与えられるものであり、既に幾つかのリスクの影響を受けていることは言うまでもない。取り組む姿勢や対策の取り方は違うものの、企業の存続を脅かすリスクにどのように対峙していくのか、全社挙げての意識高揚と実際のリスク管理に向けた行動が急務である。